

| | |
|--------|---|
| 目指す学校像 | 社会的自立を目指し、未来を拓く誠実な青年を育成する |
| 重点目標 | 1 生徒個々に対応した分かりやすい授業を展開し、進学に向けた発展的な学習を組織的に取り組む。 2 キャリア教育・進路指導を組織的に行うとともに、外部教育機関と連携し、生徒の進路意識を向上させる。 3 定時制の生徒に合致した「主体的・対話的で深い学び」による授業を通じ、能動的な学びを身につけさせ、生きる力を育む。 4 組織的かつ計画的に、日々の教育活動を発信し、地域に開かれた学校づくりを進める。 |

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成（8割以上） |
| | B | 概ね達成（6割以上） |
| | C | 変化の兆し（4割以上） |
| | D | 不十分（4割未満） |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえた評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|---|
| 出席者 | 学校関係者 | 名 |
| | 生徒 | 名 |
| | 事務局（教職員） | 名 |

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | | |
|-------------|---|--|--|---|---------------|-----|
| 年 度 目 標 | | | | | 年 度 評 価（月日現在） | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 |
| 1 | ・中学校を不登校だった生徒が多く在籍しており、義務教育の学習内容が十分に身につけていない生徒が多く見られる。そのような状態で高校の教育を学ぶには、生徒個々に対応した分かりやすい授業を展開し、学びなおしを含めた基礎学力の向上が必要といえる。 | ・生徒個々への学習指導体制の充実と学校生活に自信や目標を持った生徒の育成を目指す。 | ①生徒理解に務め、分かりやすい授業になるよう授業の改善を行う。 ②学習サポーターと連携し授業支援を有効的に実施する。 ③ICTを利用して授業を支援、補助する動画を作成し、YouTubeにアップする。 ④多様な文化を持つ生徒への対応のため多文化共生推進員やICTを活用する。 | ①7割以上の生徒が「授業が分かりやすい」と回答。 ②各授業に於いて個々に応じた工夫を実践する。 ③各教科每学期1本以上授業支援、補助動画を作成する。 ④始業前に年間45回の日本語勉強会を実施。オンライン教育（33回）も併用する。 | | |
| 2 | ・様々な理由により生徒の進路に対する意識は低く、将来の夢ややりたいことを見つけられない状況にある。生徒の進学・就職支援を充実して、進路意識の向上を図り、将来の夢や具体的な目標を持たせ、進路実現につなげることが昨年度から継続した課題となる。 | ・4年間を通して系統的なキャリア教育・進路行事等を組織的におこなない、各種の学校行事との円滑で効率的な連携を目指す。 | ①かわぐちサポステとの連携により、進路講演会・SST（ソーシャルスキルトレーニング）・社会体験活動や短期間の職業体験（インターンシップ）の機会を設定する。 ②NPO法人等の外部教育力を活用したキャリア教育を推進する。 ③自発的な取組ができるよう、「浦定チャレンジ」を推進する。 ④卒業生による進路講演会を実施する。 | ①8割以上の生徒が「コミュニケーション能力が上がった」と回答。 ②生徒の進路決定率とアンケートの結果。 ③8割以上の生徒が「自発的に取組を行えた」と回答。 ④7割以上の生徒が「進路意識が向上した」と回答。 | | |
| 3 | ・基礎学力の定着と、身に付けた学力をどのように活用するのかが本校の課題である。生徒個々の学力や、理解の深まり方も差が大きい。生徒の心理的問題や複雑な家庭環境に対応するため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携が必要である。 | ・主体的・対話的で深い学びによる知識の定着を達成でき、基礎学力や発展的学習が深まった生徒の育成を目指す。 | ①「主体的・対話的で深い学び」による授業を実施する。 ②未来を拓く「学び」プロジェクトによる、他校及び中学校教員への授業公開を実施する。 ③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し教員向け研修会を実施する。また生徒、保護者との個別相談を充実させる。 | ①全教員が授業において、「主体的・対話的で深い学び」を各学期に1回以上実施。 ②公開授業により、他校教員及び中学校教員の参加者を増やす。 ③専門職のアドバイスを参考にして、より一層分かりやすい授業を展開する。 | | |
| 4 | ・保護者会への参加希望数は多いが、一昨年の参加率は半分程度である。今後も保護者が参加しやすい時期や魅力的な内容を検討していくことが必要である。コロナ対応で保護者会が実施出来ない場合は当日の資料を、生徒をとおして配布する等の工夫が必要である。 | ・学校HPを活用し、情報発信を積極的に行い、生徒保護者や中学校との連携を強化する。 | ①公開行事等において、保護者の参加を促し、日常の教育活動への理解を強化する。 ②給食委員会が主導して「食育」を充実させる。また、食の大切さ、命の重さの指導をする。 ③保護者対象のアンケートを実施する。 ④学校HPの定期的な更新と内容の改善を行う。 | ①保護者会参加者が、前回実施の一昨年度を上回る。 ②給食喫食率9割以上、アンケートによる給食満足度を8割以上。 ③保護者会参加者アンケートにて、肯定的意見が8割以上。 ④HP更新回数目標（60回） | | |

| 学 校 関 係 者 評 価 | | | |
|-------------------|----|---|-----|
| 実施日 | 令和 | 年 | 月 日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |